

田上水車場跡



【解説】

- ・ 島津斉彬は、高い金額で買っていた帆布を藩内で自給するため田上村と永吉村に水力を利用した機織場を作った。
- ・ 安政5（1858）年頃から、記念碑のある公園近くを流れる田上川から取水して水車を稼働させて生産を始めた田上水車館は、同年の斉彬の死を経て、慶応3（1867）年、磯に様式の紡績工場ができるまでの10年間仕事を続けた。
ここで織った製品は、それまで大阪から買っていたものより約3割も安く製造できたとされている。

【近くのトイレ・休憩施設】

【アンケート】